

21.9.30

佐倉市

教育センターだより Vol.19

平成21年9月30日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486) 2400 <http://www.city.sakura.lg.jp/kyoikucenter/index.htm>

目の前の児童生徒のために

所長 佐久間 保男

「学習をすること」とはどのようなことを言うのでしょうか。まず、学習という意味から考えていくと、様々な考えがあると思いますが、ある辞書には次のように

- 1 学問・技術などをまなびならうこと。「一の手引」「一會」
- 2 学校で系統的・計画的にまなぶこと。「英語を一する」
- 3 人間も含めて動物が、生後に経験を通じて知識や環境に適応する態度・行動などを身につけていくこと。不安や嫌悪など好ましくないものの体得も含まれる。

と記載されています。教職員が「学習」とは、と問われたら、1や2の事柄に関して回答することが多いのではないかでしょうか。もちろん3の事柄を絡めてという回答もあることでしょう。

では、学校教育の中で「学習をする」のは誰、と聞かれたらどのような回答をしますか。多くは、児童生徒であると回答することでしょう。私もこの考えです。教職員（広い意味でとらえれば、教職員の研修も学習の一つの位置づけになる）や保護者も含めてという回答もあるかもしれません。

次に、「学習をさせる」のは誰、と聞かれたらどのような回答をしますか。この回答も幾つかあると思います。家庭の持つ役割も重要な位置を占めますが、私は、「教職員である。」と回答します。なぜならば、「学習」そのものに関わっている時間が長いからです。そして、学校教育は意図的に行われるものだからです。「学習をさせる」という言葉は、強制的である。と受け取られる部分があるかもしれません、個や集団が「学習をする」という習慣を学校生活の中で育んでいくためには必要なことであると思います。ここで示した「させる」とは、児童生徒が学習をする「環境」を整えていくという意味で用いています。学校教育の中で一番の環境は、教職員であると思います。

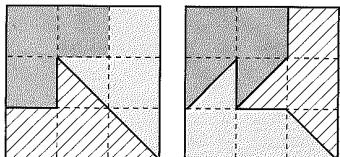
私は、学校に訪問する機会が多々あります。教室環境や学習をしている様子を一つ見ても、校庭を見ても、学校により相違はありますが、どの学校でも一番の環境である教職員が、児童生徒と向かい合い指導している姿を知っています。ここでもう一步、踏み出してみませんか。出来ることから、一つずつ。

時間になったら、児童生徒が学習に取り組む用意ができていますか。一方的な説明の授業になっていませんか。「前の時間ここまでやったから、今日は続きをやります。」と授業に入っていますか。チョーク1本で、児童生徒に背を向け、黒板に向かってしゃべっていませんか。（ちなみに教員時代の私）

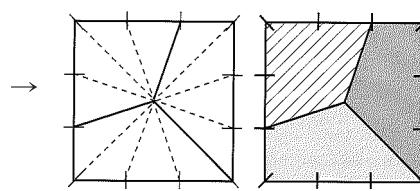
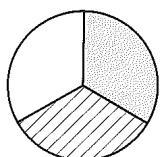
約束事を決め、児童生徒を主役に、前時のポイントを再度確認し、計画的に行えばよかったです。」「学習をさせる」ことから、「学習をする」児童生徒を育てるために、ちょっとした努力の積み重ねをし、環境を整えていきましょう。目の前の児童生徒のために。

前回掲載問題の解答

《例1》



《例2》



・正方形を考えやすい
図形(円)に置き換えて
考えると、例2の
ようにわかりやすい。

「平成21年度佐倉市教育相談基礎講座」から

1 はじめに

教育センターでは、「教育相談の理論と技法を修得し、児童生徒の持つさまざまな問題解決に向けての指導力を育成すること」をねらいとして、平成19年度より教育相談基礎講座を実施しています。今年度は、17名の先生方が受講しています。多くの先生方に教育相談の意義を理解していただくために、研修の様子を紹介します。

2 研修の概要

	主題・内容	講 師
第1回	教育相談の意義(講話)	印旛村立印旛中学校 校長 滝本 信行 先生
第2回	ミニカウンセリングの理論と実践(演習)	佐倉市立南志津小学校 校長 杉本 勉 先生
	不登校児童生徒の理解と対応(講話)	佐倉市教育委員会 指導課 前林典子 指導主事
	問題行動の理解と対応(講話)	佐倉市教育委員会 指導課 相蘇重晴 指導主事
第3回	構成的グループエンカウンターワークの理論と実践(演習)	成田市教育委員会 教育指導課 指導主事 荒金誠司 先生
	発達段階から見た児童・生徒理解(講話)	佐倉市立臼井西中学校 養護教諭 本島亜矢子 先生
	インシデントプロセスによる事例研究(基礎演習)	北総教育事務所 指導室 指導主事 青柳 伸二 先生
第4回	特別な教育的ニーズを持つ子どもとの理解と支援(講話)	佐倉市教育委員会 指導課 山本 健太 指導主事

研修は、『教育相談の意義』をはじめとした講義と、『インシデントプロセスによる事例研究』などの演習により行っています。実際に教育相談で使える手法を体験することにより、はじめは緊張気味だった先生方も、表情が和らぎ、にこやかな笑顔も見られるようになりました。

なお、本講座の全内容を受講した方には、修了証書をお渡します。また、千葉県教育委員会が実施する『教育相談上級講座』の受講資格を得ることができます。

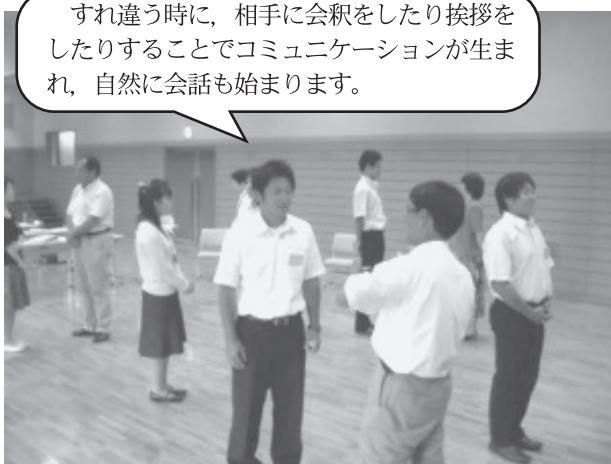
カウンセリングにおける
関わりとして
・理解者になる（分かる）
・味方になる
（活かす・育てる）
・人間として関わる
（共に生きる）
ことがポイントです。
『心で聴いて、心で応える』
ことが大切です。



話をする時に、相手が無視をしたり否定的な態度を取ったりすると、とてもつらい気持ちになり、話も途切れてしまします。逆に、相槌を打つたり、にこやかな笑顔で接したりしてくれると、思わず身ぶり手ぶりを交えてしまうほど、話が弾みます。

教育相談では、相手の話を聴く態度が、とても重要です。

すれ違う時に、相手に会釈をしたり挨拶をしたりすることでコミュニケーションが生まれ、自然に会話を始まります。





児童生徒の問題行動を理解し、適切な対応をするためには、多面的に児童生徒を理解し、保護者や地域住民、関係機関との信頼関係を築くことが大切です。



学級に休みがちな児童生徒がいる場合、休んでいるときの様子を把握し、態様別に対応を考えることが重要です。一人ひとりの子どものよさを見つけ、認めることで、相手の気持ちに寄り添うことができます。



名刺交換は、新年度の保護者会でも使うことができます。名刺の色を前年度のクラス毎に分けておき、名刺交換で全ての色を集めよう指示することで、前年度違うクラスだった保護者とも打ち解けるきっかけを作ることができます。



発達の視点から児童生徒の発達上の課題を把握し、教育相談を行うことも大切です。



不調を訴えて度々保健室に来室する児童生徒は、何らかの悩みを抱えていることが多いです。虐待の事実を発見することもあります。養護教諭との連携は重要です。



インシデントプロセスによる事例研究では、提案者が資料を配付しないで概要を説明した後、参加者が質問し、理解のための情報を得ます。事前に詳しい資料を作成する必要がないので、提案者の負担も少なくて済みます。

参加者は、提案者に質問して得た情報をもとに、主訴・原因についてグループ討議をし、グループ毎に発表します。その後、対応策・指導方法についても同様に討議及び発表をします。提案者の対応を否定するのではなく、役立つと思える意見を述べるようにします。最後に提案者から感想を聞きます。



3まとめ

いじめや不登校、問題行動、発達に関する問題など、子どもたちが抱える問題は、深刻かつ多岐にわたっています。今後、教育相談は、ますます重要なになってくるものと思われます。問題の早期解決を図るために、担任の先生が一人で抱え込まずに、学校全体でさまざまな立場の先生方が組織的に対応することが必要です。そのために、より多くの先生方が教育相談の手法を修得し、実践を積んでいただきたいです。今後多くの先生方が研修を受講し、子どもたちのために生かしてくださることを期待しております。

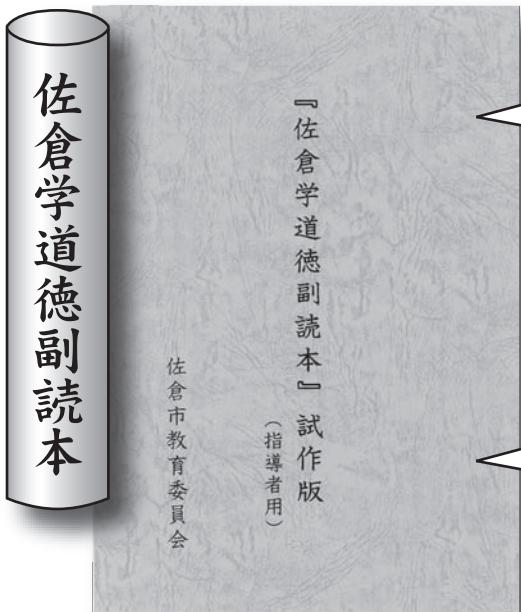
(西村 隆徳)

～『佐倉を学ぶ』～

佐倉学を通して、豊かな感性と人としての品格を育て、
郷土に対する理解と誇りを持ち、実践できる人に…

佐倉市において「佐倉学」を提唱し、学校教育の中で実践が行われるようになって7年近く経ちました。当時中学生であった方がすでに成人となり、好学進取の気風を持ち、多くの分野で活躍されていることでしょう。佐倉市では、今後も「佐倉学」を充実させ、国際社会に通用する人材育成をめざしていきます。

さて、本年度学校での指導用副読本として、「佐倉学道徳副読本」と「ふるさと佐倉の歴史」の2冊を作成し配布いたしました。すでに授業実践の中で活用されているかと思いますが、改めて内容紹介をいたします。



この副読本をつくった理由は何でしょう？

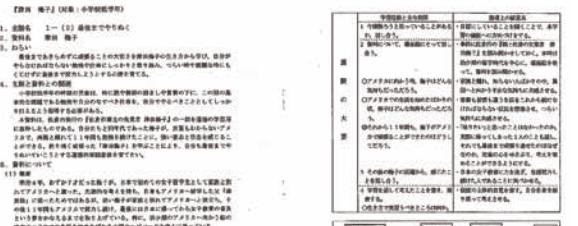
道徳での佐倉学の実践が少ない傾向にあり、さらに新学習指導要領でも道徳教育の充実、また「先人の伝記、スポーツなどを題材とし～（中略）～魅力的な教材の開発や活用を通して、～（後略）～」と先人の伝記等の教材化が明記されているからです。

先人では、誰が取り上げられているのでしょうか？

小学校低学年用として「津田梅子」、小学校高学年用として「津田仙」「西村茂樹」、そして中学校用として「堀田正睦」「西村茂樹」を取り上げて教材化しています。

どのような内容なのでしょう？

会話文を加える、話に起承転結を持たせるなど工夫し、対象学年にふさわしい長さの文章に編集して先人の功績を紹介しています。



どのように活用すればよいのでしょうか？

指導者用の冊子には、指導案が載っています。指導過程や板書計画を参考にして活用してください。

本年度は、「試作版」として配布しております。先生方が実践をされて気づいたこと、修正点などを教育センターまでご連絡いただければ22年度の発行に向けての参考とさせていただきます。ご協力のほどよろしくお願ひいたします。



佐倉市教育委員会

佐倉市でも4000～7000年前の遺跡が発見されています。時間的に遠く離れた時代の学習でも、佐倉の遺跡を通して学習することでより身近に感じさせることもできます。

第2節 堀田正睦と佐倉



堀田正睦と井伊直弼

堀田家と井伊家は、徳川家臣として幕府で政治を行った。老中や大老を出せる家柄でした。幕末の日本は、ペリーの来航以来、「開国」か「攘夷」かで大きく揺れ動いていました。

堀田正睦は、開国派の中心として外交による日本の貿易立国を目指していました。

しかし、朝廷や水戸藩の徳川斉昭たちは攘夷を唱え、外国人を日本に入ることは許さないという態度で一貫していました。もちろん条約など結ぶのは認めません。親藩である水戸藩の発言力は大きく、幕府の意思を統一することは困難でした。正睦の前任者で福山藩主であった老中阿部正弘は、幕府の改革に努め、有能な人材を登用したり、外様大名たちから意見を聞いたりと日本の状況を的確に判断し日本の進むべき道を模索していましたが、老中任中に39歳という若さで亡くなってしまいました。このころ、幕府では開国の問題の他に、14代将軍の後継者問題も起きていました。13代將軍徳川家定が病弱であり、子がないということから、英明な「福島喜か、幼いが家定に近い紀州藩の徳川慶福か」ということで争いとなっていました。そこで登場してきたのが大老となった井伊直弼です。直弼は、幕府の権威を回復することを目的として、徳川慶福を将軍とするための動きを活発にします。

直弼は、大名たちの意見を聞くことが幕府の権威を弱める元だと考えていました。将軍家定や大奥の評判をとった直弼は、徳川慶福（家茂）を14代将軍にすることに成功しました。また、幕府は、正睦が朝廷に許したを始めた勅許が得られないまま「日米修好通商条約」を結んだため、多くの攘夷派の人々の怒りを買いました。すると直弼は、攘夷派や慶喜を捕めた人たちを次々と罰し、「安政の大獄」を断行しました。正睦も慶喜を捕めたということで、老中をやめさせられました。しかし、このことにより、直弼は、1860（万延元）年、江戸城桜田門外で攘夷派の浪士たちに暗殺されました。

正睦と直弼は、江戸城の控えであった「藩之間」に席があり、普段は、お互いに様々な意見を交換していたと思います。政敵といわれるような二人ですが、同じ立場の人間として心が通う場面があったのではないかでしょうか。

39

『郷土の先覚者ダイジェスト』のページでは、佐倉の先覚者の生立ちや業績をコンパクトにまとめて紹介しています。

中央史の学習を行う際に、当時の佐倉の様子も合わせて学習できるように佐倉の歴史を通史的に扱っています。

今年度は、市内小学校の6年生児童全員に配布しました。来年度以降、毎年新6年生に配布します。市内中学校には、1校につき50冊を配布してあります。

第1章 原始と古代の佐倉

第1節 佐倉のあけぼの



上総美術

上総美術は特有の技術の技術です。技術は、人が作った物の技術からもしてあります。下総美術は、日本で最も古いものとされています。上総美術からは、豊かな資源を多く持つ事が実証されています。これらは、日々の生活や文化の技術であります。



青森県・三内丸山遺跡
三内丸山遺跡は、今から約3,000年前～4,000年前のものとされています。特徴として、石器はほとんどで、石器で建設された遺跡としてあります。この遺跡からは、大きな石柱や土器などの大型遺跡がたくさん見つかっています。



佐倉出土・石斧
この石斧は、江戸時代初期に作成されたものとされています。

日本列島では、今から1万5千年前から人々が暮らし、土器の使用が始まっています。この時の土器は、縄目や横縞がついたのが多いことから「縄文土器」と呼ばれます。縄文土器は、狩りや漁でかけたり作物の栽培もありして、食料を得ていました。2400年くらい前に農耕を中心とした社会に移るまでの約1万年間を縄文時代といいます。

佐倉では、約7000年前の堅穴住居や土器などの遺跡が発見されており、約4000年前にころんとした落葉がいくつもつぶらていました。青森県の三内丸山遺跡は約6000年前の遺跡であるところから、同時に佐倉の人々が集まつて暮らしていたことがわかります。特に井野小学校附近で見つかった井野小学校跡は、全国の遺跡の中でも比較的規模が大きい。縄文時代初期に作られた「堅穴土器・土器」が

見つかっています。ここから縄文人たちが、協力して計画的にもづくりをしていた様子が伺えます。

また、佐倉の人たちも印旛沼周辺の魚や貝、森のイノシシやシカなどをどて食べていました。當時の印旛沼は、今のような沼の形ではなく、東京湾と多くの川で河口のようにつながっていました。佐倉市では、小さないながら貝殻も見つかっています。そこから、ハマグリやシジミなどの貝がらが見つかっています。また、川は食料をとるだけではなく、重要な交通路でもあります。縄文土器は、丸舟舟を使って東京湾周辺の人々と交流があったことがうかがえます。

佐倉の縄文土器たちの生産上の問題は、右器に使われるようなかたい石がないということでした。鉄が使用されるまでには、石器が重要な道具でした。石斧や石鎌(矢張り)などを

『佐倉学コラム』というページがあり、佐倉の歴史と中央史のつながりがわかります。このページは、中央史でよく名の知られている人物と佐倉ゆかりの先人とが歴史の中で関わっている事実を取り上げています。

佐倉の先覚者



津田梅子

わずか8歳でアメリカに渡り英語教育に情熱をかたむけた津田塾大学創設者

1864（元治元）年～1929（昭和4）年

津田梅子は、日本初の女子留学生としてアメリカに渡り、その後、日本の女子教育を推進した人物です。梅子は、江戸時代の末期、佐倉藩士の子として生まれた幕臣津田 仙の二女として江戸で生まれました。1871（明治4）年、ヨーロッパの状況視察のために派遣された岩倉具視遣欧使節団の一員とともに日本最初の女子留学生6名の中の最年少としてアメリカに渡りました。アメリカでは、小学校・女学校を卒業しキリスト教にも入信しました。そして、1882（明治15）年、アメリカの進んだ教育や文化を学んで日本に帰国しました。その後、伊藤博文や日本の女子教育に力を尽した下田敬子などとも親しく接し、下田敬子の華族女学校に勤めました。しかし、上流階級の子女だけしか学べないような女子教育に疑問を感じた梅子は、1889（明治22）年、再度アメリカに渡りました。帰国後、東京麹町にたつた二郎星の家を借りて「女子英学塾」を開き、報酬もなく一般の女子教育に当りました。これが、現在の「津田塾大学」の基となっています。梅子は、自ら牧燈に立つ、英語教育に尽力し個性を尊重した教育に邁進しました。梅子の教育は、日本女性の地位向上させる大きな役割を果しました。そして、その功績を国内外に認められ、1915（大正4）年には、勲六等宝冠章を授与されました。そして梅子は1929（昭和4）年、65歳の生涯を静かに閉じました。梅子の墓は、津田塾大学の境内にあります。



香川松石

書道の教科書を出版し、書道

社会科の時間に限らず、総合的な学習など佐倉学を学ぶ際の資料として活用していくことが可能です。各学校で活用いただき、効果的な活用の事例がありましたらぜひご報告いただければ幸いです。

(小川 英昭)

“さくら”学びの窓

自ら運動し、共に体力を高めるための体育学習のあり方

～教科体育と日常的な体育活動の充実をめざして～ 佐倉市立印南小学校

印南小学校では、平成16年度に低学年体育の研究を始め、平成18年度より全学年で「共に体力を高める」体育学習のあり方を研究しています。正課体育の充実にとどまらず、特別活動や業間運動においても体力を高めることに力を入れています。今年度は、業間運動の時間を中心に取り組んだいきいきしばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」において、前期（4～6月）に参加した、県内156校のうち、最も積極的にコンテストに取り組んだ学校として大賞に輝きました。

正課体育の充実

印南小体育学習の基本的な学習の流れ	
学習の流れ	ねらい・留意点
○準備運動	・主運動につながるようないろいろな運動（動き）をさせながら心と体のリラックスを図る。
○場の準備	・運動の基礎感覚づくりをする。
○めあての確認	・役割分担を明確にし、安全に留意しながら短時間で準備させる。 ・本時の学習内容を明確にする。
○めあて①	・本単元で身につけさせたい力をはっきりさせ、そのためのめあてをスマールステップで明確に提示する。 ・学習カードの活用 ・易しい場の中で、グループ・ペア・個人などで運動（動き）を楽しんだり磨きたりさせる。 ・よりよい動きや仲間と上手にかわっている児童を称賛し、見合ひの場での児童を決める。
○めあて②	・できるようになったり上手になったりした児童の運動（動き）を見合う。 ・児童の意欲に任せただけでなく、教師のねらっているよりよい運動（動き）を見合い、学習内容に沿り、めあて②につなげていく。 ・グループや個々にあった場や運動の仕方を工夫しながら取り組ませる。 ・励まし合いや教え合い、補助をし合うなどして、仲間とのかかわりを深めながら課題を達成していく。
○学習のまとめ	・健康観察しながら、手短く述べる。 ・個々のめあてを想起させ、挙手したり学習カードに記入したりする。 ・技能の向上した児童だけでなく、意欲的に学習に取り組んでいた児童について教師から紹介する。
○後片付け	・役割分担をそつて、安全に留意しながら全児童で効率よく行う。



編集後記

今回は、体育の研究に長く取り組んでいる印南小学校の研究の一端を『“さくら”学びの窓』として紹介させていただきました。11月には公開研究会も予定されています。児童の動きを通して研究の成果を感じられることと思います。

夏季休業中の研修も充実したものであったと思います。今回紙面で紹介させていただいたセンター主催の「教育相談基礎講座」の研修においても、先生方の熱い思いが伝わってきました。9月からの教育活動に生かされることを期待しております。